

事務事業評価表 平成23年度

政策 市民協働によるまちづくり
 施策 国内・国際交流の推進
 基本事業 異文化交流の推進

事業名 **江別市都市提携委員会補助金**

[0540]

部名	企画政策部	事業開始年度	昭和52年度	実施計画事業認定	非対象
課名	秘書課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>江別市都市提携委員会</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>江別市都市提携委員会に補助を行うことで、当委員会が以下の成果をあげることができる。異文化を理解し、広い視野をもった市民を増やす。市民ボランティアとして活躍出来る人を増やす。姉妹・友好都市との交流を通じて自分の国やまちの歴史や状況を客観的に理解し、郷土を愛する心を育むとともに、国際感覚を身につけ国際社会に貢献できることを目指す。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>姉妹・友好都市交流を行う。都市提携委員会に補助を行う。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	江別市都市提携委員会会員数	人	50	50	50	50
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	400	400	400	400
活動指標2						
成果指標1	姉妹都市・友好都市派遣人数	人	3	3	3	3
成果指標2	姉妹都市・友好都市受入人数	人	3	3	0	3
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	400	400	400	400
正職員人件費 (B)		千円	418	415	403	407
総事業費 (A) + (B)		千円	818	815	803	807

費用内訳	
22年度	負担金 補助及び交付金 400千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化 例年、グレシャム市への派遣を希望する高校生が多いことから、経費の見直しとグレシャム市側との調整等により平成17年度から派遣者数を2名から3名に増員したほか、平成18年度からは受入人数も2名から3名に増やしている。なお、19年度にはグレシャム市との姉妹都市提携30周年を迎えたことにより、市長ほか市関係者と市民からなる訪問団がグレシャム市を訪問し歓迎された。また、20年度には土佐市と友好都市提携が30周年を迎えたため、相互訪問をはじめとした記念事業を実施し、交流を深めた。
--------	--	---

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

姉妹・友好都市交流は、公共的要素が強く含まれているが、交流事業には柔軟でスピーディな対応が求められることから、姉妹・友好都市交流を担う団体への補助は妥当と考える。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

異文化交流の推進に貢献がある。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

江別市からは計画どおりに3名を派遣した。受入・派遣の高校生はともに、異文化を体験したことで成長し、周囲にもよい影響を与えている。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

姉妹・友好都市への訪問で得たことを、できるだけ多くの人たちで共有することによって、成果の向上が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

- ある
- ない

理由・
根拠は？

16年度から海外派遣に係る自己負担割合を増加(1/2→2/3)、17年度から選考試験の外注取り止め。派遣・受入人数を増加(2名→3名)、18年度から相互派遣人数の増に伴うコストアップを防ぐ上から、ホストファミリーへの謝礼等を削減してきたが、派遣時の航空運賃等も高騰しており、これ以上の削減は現状では難しい。